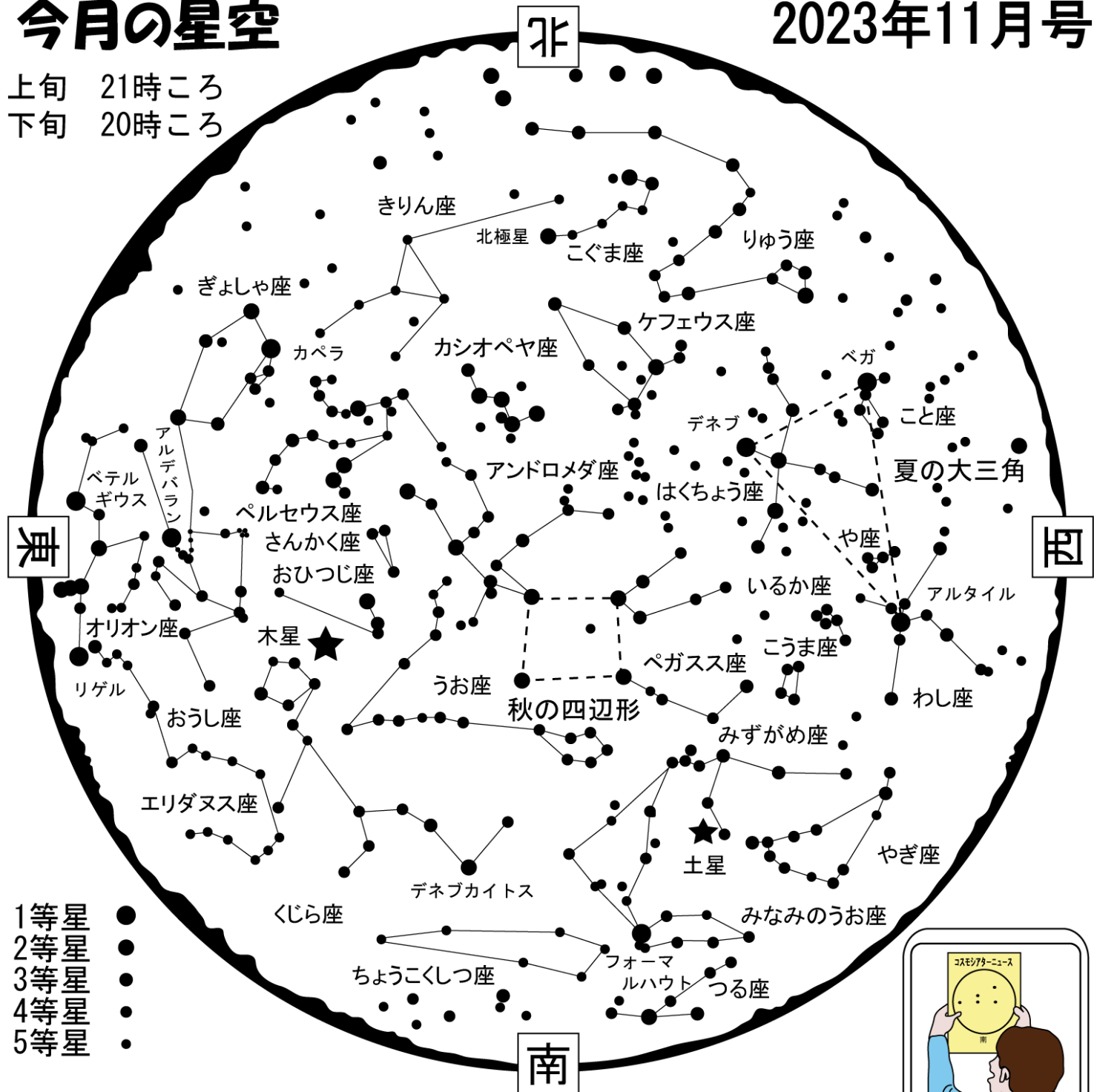


コスモシアターニュース

今月の星空

2023年11月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



冊

冊

- 1等星 ●
- 2等星 ●●
- 3等星 ●●●
- 4等星 ●●●●
- 5等星 ●●●●●

惑星の動き

水星：月末の夕方、南西のたいへん低い空に見えます。明るさは0等星です。
 金星：明け方、東の空に見えます。明るさは-4.5等星です。
 火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
 木星：夜のはじめころ、東の空に見え、真夜中前に南の空へ移動します。明るさは3等星です。
 土星：夜のはじめころ、南西の空に見え、真夜中前に沈みます。明るさは1等星です。



今月の月の満ち欠け

下弦：5日(日) 新月：13日(月) 上弦：20日(月) 満月：27日(月)

3日(金)、木星が衝

木星が3日(金)に衝(ほぼ一晩中見える)となり、観望の好機となります。この日の木星の明るさは、-3等星で、1等星の40倍くらい明るく輝き、すぐに見つかるでしょう。

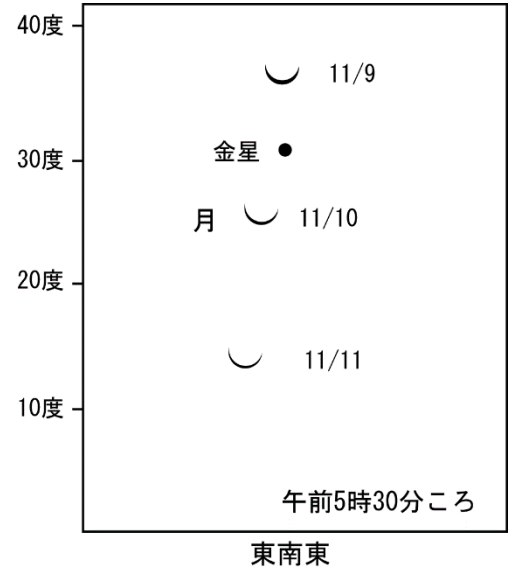
木星は、肉眼で見ると普通の明るい星にしか見えません。しかし、天体望遠鏡を使うとしま模様が見えてきます。また、目玉のような大赤斑(だいせきはん)と呼ばれる、模様も見えることもあります。なお、コスモシアターで実施する星空観望会で見るができます。ご覧になりたい方は、ぜひご参加ください。

9日(木)~10日(金)、明け方東の空で、月と金星が並んで輝く

明け方の午前5時30分ころ、東の空を見ると、大変明るい星が見えます。この星が金星です。この金星に、9日(木)~10日(金)の明け方、細い月が並んで、大変美しい眺めとなるでしょう。

まず9日の朝は、月が金星の上側に輝きます。そして、10日になると、金星の下側に、月が移動します。月と金星の間隔は、ほぼ同じです。そして、11日(土)の朝は、月が金星から下側にさらに離れていきます。接近の見ごろは、9日と10日の明け方になります。

金星は大変明るいので、午前6時ころまでは見えています。天気が良ければ、連続してご覧いただくと、月の位置や欠け具合の変化を見ることができます。ぜひ早起きをしてご覧ください。



18日(土)、しし座流星群が極大

18日(土)の明け方前に、しし座流星群が極大となります。ただし、活動の予想は低調です。多くて、1時間当たり5個程度の流星が見られるでしょう。見ごろは午前2時~4時ころの東の空です。

20日(月)、南の空で、月と土星が並んで輝く

20日(月)の19時ころ、ほぼ半月の月が、南の空に輝いています。そして、月のすぐ左上に、明るめの星が並んで輝きます。この星が土星です。普通の1等星ですので、月が明るくあまり目立たないかもしれません。注意深く探してください。

25日(土)、東の空で、月と木星が並んで輝く

25日(土)の18時ころ、東の空に、ほぼ満月の明るい月が輝いています。そして、この月の右下を見ると、明るい星が輝いているのが分かります。この星が木星です。木星は-3等星で、普通の1等星の30倍以上明るいので、大変目につくでしょう。なお、時間がたつと南の空高く昇ります。見ごろは、ほぼ一晩中です。

秋の星を見つけよう

右の図のように、秋の四辺形を使うと見つけることができます。時刻は、11月上旬の20時ころ、下旬ですと19時ころです。そして、見る上げる方角は、南の空を見た時の様子です。右が西、左が東、下が南で上が北になります。

秋の星の見つけ方ですが、たとえば、秋の四辺形の右側の辺を結んで、南側に伸ばすとフォーマルハウトが見つかります。この星は、秋の星座の中でただひとつの1等星で、秋のひとつ星や南のひとつ星と呼ばれます。今年、フォーマルハウトの上側のみずがめ座に土星が輝き、いつもとは違った姿になっています。

また、左側の辺を結んで、同じように南側に伸ばすと、くじら座のデネブカイトスにたどり着きます。

いっぽう、左側の辺を結んで北に伸ばすと、カシオペヤ座(となりにケフェウス座があります)をとおり、北極星へたどり着きます。

このころ、秋の四辺形は、ほぼ頭の真上に輝いています。まず頭の真上を見上げて、四辺形を見つけ、秋の星座たちを見つけてみてください。

なお、11月は27日が満月になります。満月のころは、月が明るく星が見にくいことがあります。星座を見つけるには、5日から20日ころまでがいいでしょう。

